R7 楡木小学校　学校通信
No.２９
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年１１月２１日
文責　余宮

見学旅行や修学旅行など、郊外活動を絶賛実践中です。お弁当などお家の方のご支援、大変ありがとうございます。

分かっていることが分かる

見学旅行に修学旅行など、今さまざまな校外活動が行われていますね。各学年の学習（中心は社会科や生活科）に沿って計画されており、どの学年のお子さんも大変楽しみに参加しています。教科書や資料集などにも写真などで掲載されているにもかかわらず、実際に行く。教科書での学習と実際体験する学習の違いは、どこにあるのでしょうか。

先日の４年生の見学旅行の一場面。清和文楽や通潤橋など、今回の見学地の事前学習もばっちりです。バスの中では私にたくさん教えてくれました。分かっているねえ。

さて、実際の清和文楽館では、人形浄瑠璃の実演に加え、人形使い体験も！難しい人形使いにも次第に慣れ、ずいぶん艶やかな動きができるようになり、大きな拍手。う～ん、素敵な学びが繰り広げられています。

程なく、資料館へと学びの場を移し、展示してある「かしら」や「衣装」を食い入るように見つめる子どもたち。その隣には、仕掛け人形があり、電動でくるりと回転する間に、「かしら」の表情がガラッと変わる。回った裏側は残念ながら見えず。しかし、けいさん（仮名）の関心は止まりません。ギリギリ見えるところまでじ～っと凝視しながら、その秘密を暴こうと必死。隠れる瞬間、仮面が上からずるりと動き、顔が変わる直前を発見したけいさんが、もう一度出てくるところに素早く動き、また観察。すると、前髪がひげに変わっていることを再発見し、もう一度食い入るように人形の動きに合わせて凝視。

「うん、分かった！前髪がひげになり…ほら、やっぱり前髪がなくなっているでしょ」と、納得顔。でも、どんな操作で変身したのかが、まだよく分からないねえ。と、目線を動かしてみると、人形を動かすパーツが実際に手に取れるところに置いてある。さあ、どうするけいさん。と思っていると、もうすでにけいさんは実際に動かし始めていました。

素晴らしい学びの姿です。

教科書は静的なものなので、どうしても子どもたちに学んでほしいことが整然と並べられているように見えます。それでももちろん、子どもたちは分かるんです。しかし、現場は、子どもたちが追究したいことが生まれた時に、実際に手に取れるところにある。やってみたい・見てみたいことが、さらに増える。学びの向きが違いますね。だから、分かっていたことをも、分かり直すことができる。

脳科学者の茂木健一郎氏は、著書の中で次のように述べています。

「分かりたいと思って学んで分かったその先には、もっと分かりたいが１０個以上待っていた。もっと知りたいことが増え、もっともっと学びたくなる。追求は終わらない。」

なるほど、納得。

まさに、学びの醍醐味を表現した言葉に、大変感銘を受けます。翻ってけいさんを含め、見学旅行などの現地学習をしている子どもたちの学習する姿は、まさに追求の鬼。自分たちの知りたい・学びたいが溢れ、いつの間にか没頭している姿が随所に見られます。バスに乗って教室とは違うところで学ぶ。お家の方にもご協力いただきながら行う見学旅行は、大きな意味があるな、と改めて思う引率の日々でした。